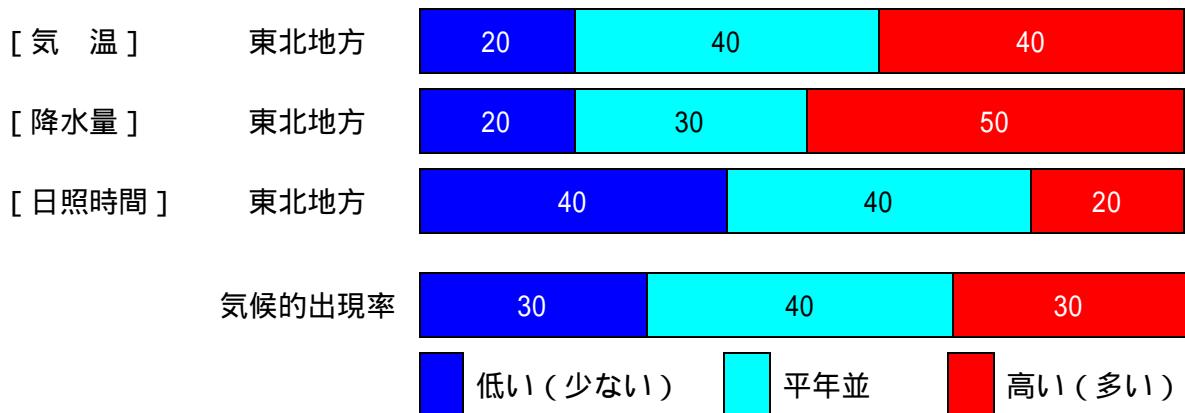


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：5月22日～6月21日）

平成11年5月21日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「低い」確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「多い」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「平年並」で30%です。「少ない」確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです）

向こう1か月

低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は「高い」でしょう。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 天気は周期的に変化しますが、期間の後半には気圧の谷の影響で曇りや雨（5月22日～5月28日）の日があるでしょう。平均気温は高い見込みです。
(詳細は週間天気予報を参照)

2週目…………… 天気は周期的に変化しますが、前線の影響で曇りや雨の日があるでしょう。
(5月29日～6月4日) 平均気温は高い見込みです。

3～4週目…………… 前線の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
(6月5日～6月18日) 平均気温は平年並の見込みです。

3 . 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーを平均すると、1週目から2週目にかけて高めに推移し、2週目後半以降は平年並～高めが予想される。2週目以降アンサンブルメンバーのバラツキは大きく、信頼度は小さい。

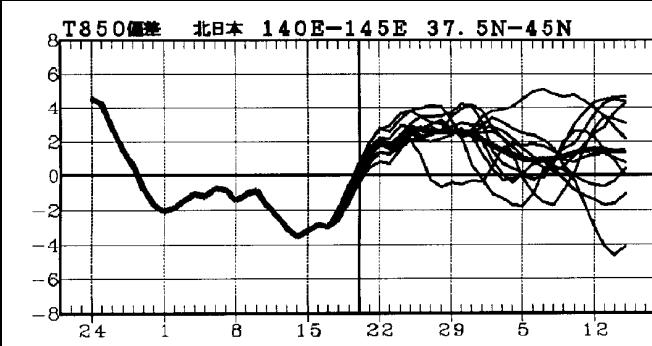


図1 北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（ ） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注)・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

・850 hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4 . 最近 1 週間 (5月 14 日～5月 20 日) の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。15日～16日、19日～20日にかけては低気圧や前線の影響で曇りや雨のところが多く、その他の日は、移動性高気圧に覆われて晴れるところが多かった。気温、日照はほぼ平年並、降水量は平年より少なかった。

表1 最近 1 週間の 平均気温、降水量、
および日照時間の平年差（比）
(地域平均値、アメダスによる速報値)

	気温偏差（ ）	降水量（ % ）	日照時間（ % ）
東北全域	-0.6	69	95
東北日本海側	-0.4	56	103
東北太平洋側	-0.6	78	90